

★深釣りへのチャレンジ!!

磯マダイを求めて

★甕島 瀬々野浦編

★磯マダイを釣るための大切な4項目

- ◎釣り所の見つけかた
- ◎仕掛けの投入点
- ◎仕掛けの流し方
- ◎仕掛けが馴染んでからの流し方を調整するオモリ使い

クロが産卵期に入り、3月から4月、場所によっては5月前半ぐらいまでクロが釣れない、釣れにくくなっている磯も多いです。

ただイシダイやチヌ、マダイなどは乗っ込み期に入って今がピーク前後かなと思います。この号が出る5月下旬は、イサキをメインに、遅れて入ってくるマダイ、そして、産卵後のクロやオナガグロが磯の上物師のターゲットになります。私の一推しは磯のマダイ釣り、釣ってよし、食べてよし、近所に配ってもよしで、大変喜んでいただけます。

今回、磯マダイを求めて、甕島・瀬々野浦に永福丸さんで2週連続出かけて見ました。

〈1日目 立髪〉

4月22日、今日は小潮の初日、満潮が午前11時過ぎぐらいで、朝から上げ潮を釣って、満潮から回収の午後1時まで、下げ潮を釣ります。乗礁したのは「立髪」で、ここは、細かく分ければ、立髪と四角瀬、カブリで一応3ヶ所乗れますが、上げ下げ両潮やれて足場が広いのは四角瀬で、私の好きな釣り場です。

それと、話は変わりますが、マダイやイサキを釣りたい時は、船長に前もって狙いたい魚種を必ず伝えてください。そうしないと、普通にクロ釣り場に乗ることになりがちです。もちろんクロ釣り場でも釣れ

く甕島に来たのなら、クロも狙ってみようということで、朝一はまずはクロ狙い。仕掛けは図を参照してください。

〈実釣・クロ編〉

強い東からの風が甕島本島から吹きおろして来ますが、その風に負けないぐらいの潮が釣り座の右から左沖にいい感じで流れています。

まず、4ヒロぐらいのタナでBのウキで、ハリスには、オモリ無しでスタートしましたが、向かい風の強風

にもかかわらず、左沖にアツと言うまに飛ばされてしまっています。そこで、ハリスにG5のジシタンを2個均等打ちにして再スタート。これでもなじまず、サルカンのすぐ下にBのガン玉を追加して、ウキ止めを4ヒロから3ヒロと浅くして、よりなじ

みを速くして探っていくと釣り座の20mほど沖でいきなり良型のクロがヒット。型も良く45cmを超える元気の良いクロです。

その後は、30cmのクロが連続ヒットして来るので、マキエサと仕掛けをずらして、マキエサは今までの潮筋に入れ続け、仕掛けを今までよ

りも沖側（甕島本島側）に遠投して、少し長めに流していると、竿引きのアタリ。マダイを思わせるような引きでしたが、40cmほどの丸々としたクロで、クロ釣りはこれで終了します。

〈実釣・マダイ編〉

次は、本命のマダイ釣り、仕掛けを交換。と言ってもウキをBから3Bに、サルカン下のBのガン玉をG3に変えてウキ止めを竿2本にな

るかもしれませんが、確実に釣りたい時は、船長に相談しておくのが良いでしょう。

〈マキエサ〉

今回はマダイがメインなので、用意したのはオキアミ生3kgを3角、ジャンボアミ1角、それと配合エサは、マルキューのグレパワーV9と遠投ふかせTRを各1袋ずつ準備します。

まず、アミエビ半角を細かくつぶして、粘りとおいを出させます。そしてオキアミ1.5角を適量につぶします。マダイ狙いの時はなるべくつぶ

さないで広い範囲にオキアミが拡散するように、でも遠投も視野に入れて、5つぶして、5原形で半々ぐらい。これに、V9とTRを半袋ずつ入れ、少量の海水でかために仕上げます。



マルキューのグレパワーV9は高い集魚力と拡散にすぐれ、遠投ふかせTRは遠投と、押しムギやベレットなどで下層までマキエサを効かせることができる

仕掛けの沈み込みが速いようなので、サルカンの下のBのガン玉を G3 に変更。すると釣り座から竿2本ぐらい先で、念願のマダイ!! 型は大きくはないけど、私にとって価値ある1匹。時刻は10時過ぎ...

南のつりアドバイザー
野間辰美

今日は風が強いのと、遠投した時にバラけずにピンポイントに固まりを入れるためのかたさにします。V9は高い集魚力と拡散にすぐれていて、TRは遠投と、押しムギやベレットなどで下層までマキエサを効かせる役目です。

さっそく実釣なのですが、せっか

ウキBにBのガン玉を2つ、ウキ止めを4ヒロから3ヒロと浅くして、よりなじみを速くして探っていくと釣り座の20mほど沖でいきなり良型のクロがヒット!!

ダイ釣りになりません。時刻は9時です。まだ時間はあります。

まずウキ止めを浅くして、なじみを速くして見ます。タナは1本半、次にサルカンの下のガン玉を再度Bに戻してより速くなじむようにします。そうこうしていると完全に潮が止まり、ウキは強風で右沖に流されます。満潮の潮止まりよりも2時間早く潮止まりです。ここからは下げ潮です。強風が

わずかですが、風が息を吸うようになって来て、止まるタイミングも出て来ます。この止まるタイミングを利用して、仕掛けを入れるようにします。そしてタナを1本半から2本に戻し、仕掛けがなじんだら道糸を張ってゆるめてを繰り返しながら、深くさぐります。

